技術・家庭部会研究計画

Ⅰ．研究主題

よりよい生活・社会を描く技術・家庭科教育

～よりよい生活・社会に向けて最適解を導き出す児童・生徒の育成～

Ⅱ．研究目的

１．研究の経過

〇平成29年度～　北海道技術・家庭科教育共通の研究主題である「社会にいきる技術・家庭科教育」を石教研技術・家庭科部会においても共有することとした。副主題を「主体的に生活を工夫し創造する児童・生徒の育成」とし，「連鎖的思考」の場面設定を一つのキーワードに研究を推進した。また，令和2年度全道技術・家庭科研究大会石狩大会での研究発表に向けての準備に取り組んだ。令和4年度は主題を継続しつつ，「これまでの実践を見つめ直すこと」そして「評価」をテーマに研究を推進した。

〇令和5年度～　北海道技術・家庭科教育共通の研究主題が一新された。石教研技術・家庭部会においてもこの研究主題を共有することとした。令和8年度北海道技術・家庭科研究大会石狩大会での研究発表に向けて，研究を推進する。

２．研究主題設定の理由

「よりよい」とは，安心・安全で豊かな生活，環境保全と利便性が両立した持続可能な社会の構築を意味する。また，「社会」とは，最小の単位を「家族」とし，最大は「世界(地球)」と定義し，かつ，過去・現在・未来といったその時代に合わせて多角的に捉えるものとする。そして「描く」とは，社会の変化等に主体的に対応し，当事者意識や社会参画意識等をもちながら，これまでの学びを「いかし」，より現実的によりよい生活や社会を創造しようという思いが込められている。

副主題の「最適解」とは，状況から見て（現状で）最も適当であると思われる解答のことである。「技術の見方・考え方」，「生活の営みに係る見方・考え方」を働かせ，最適解を導き出す生徒の育成を目指す。

これまでの研究計画の下，技術･家庭科の学習を通して，これから自分たちが生活する社会を能動的に創造していくことができる児童・生徒の育成を目指してきた。本研究では，これまでの実践をさらに改善し，よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築の礎となる生活を工夫し創造しようとすることができる児童・生徒の育成を目指し，より充実した教育課程の編成・授業づくりに取り組んでいくことを目的としている。

３．目指す児童・生徒像

よりよい生活や持続可能な社会の構築の礎となる生活を，工夫し創造することができる生徒

４．研究仮説

よりよい生活・技術を描く技術･家庭科教育は，問題解決的な学習において，課題の発見と解決に向けて，自己調整しながら，主体的･協働的に粘り強く学ぶことで実現することができるであろう。

Ⅲ．研究内容

１．「問題解決的な学習」の充実

⑴　学習課題を生徒が設定できる題材計画の工夫

⑵　課題解決の展望（計画）や過程を生徒が自己決定できる題材や授業展開の工夫

⑶　「個別最適な学び」と「協働的な学び」の組み込み

⑷　ＩＣＴの効果的な活用

２.「よりよい」が判断できる力（資質・能力）の育成

⑴　生徒が身に付けるべき資質・能力の明確化

①　年間指導計画の工夫

②　生徒が技術の見方・考え方及び生活の営みに係る見方・考え方を働かせて課題を解決できる題材や授業計画の工夫

③　教科横断的な学びの視点から，小学校の既習事項や他教科の学びを把握した題材や授業計画の工夫

④　情報活用能力やプログラミング的思考（含プログラミング体験）を育成できる題材や授業計画の工夫

３．振り返りの充実

⑴　生徒が自己省察（どのように学べば効果的であったか）できる場面の設定

⑵　生徒が学んだことを生活や社会でどのようにいかしていきたいかを考える場面の設定

Ⅳ．研究方法

１．個人研究

⑴　研究内容１～３について，各校で実践を行う。

⑵　実践において作成した資料（指導計画，指導案，ワークシートなど）を石教研技家部会共有ドライブに保存する。

⑶　実践内容を専門部会二次研究協議会で交流する。

２．教育課程の研究

⑴　教育課程委員を中心に，『石狩管内小学校教育課程』『石狩管内中学校教育課程』の作成に向けて，研修を行う。

⑵　小・中・高の連携の在り方について，系統表などの作成も視野に検討を行う。

３．市町村研究

⑴　市町村研究協議会において，中心サークルは二次研究協議会に向けた指導案検討を行う。

⑵　中心サークル以外の市町村は研究内容に即して，実践交流や実技・理論研修会を行う。

４．専門部会第二次研究協議会

⑴　午前は中心サークルによる授業公開を基本とする。

⑵　午後は全体会および分野別協議会を行うことを基本とする。分野別協議会で個人研究の交流を行う。

５．実技研修・理論研修

⑴　研究内容に即して研修会を実施する。

⑵　技術分野，家庭分野のそれぞれで実施する。

６．情報の発行と資料の共有

⑴技術・家庭部会情報（事務局長）

(2) 市町村便り（市町村推進委員）

(3) 部会ホームページ（ＨＰ担当）

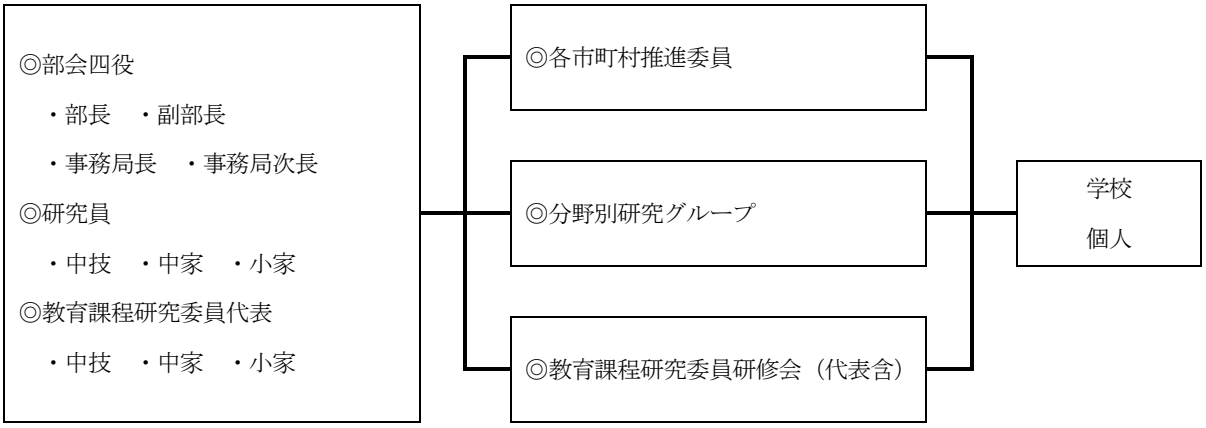
(4) 石教研技家部会共有ドライブの管理（部長・副部長・事務局長・ＨＰ担当）

７．各種研究機関との連携

(1)　北海道技術・家庭科教育研究会及び関連の研究機関

(2)　各教育機関

Ⅴ．研究組織



Ⅵ．年間計画

月	活動計画
4	○専門部会第一次研究協議会（部会体制確立，研究推進計画の確立） ○市町村第一次研究協議会（研究計画確認，年間計画・二次研究協議会内容検討など） ○技術・家庭部会情報の発行
5・6	○市町村便りの発行（以降・通年）
7	○役員・推進委員研修会 ○教育課程研究委員研修会 ○技術・家庭部会情報の発行
8・9	○実技・理論研修
10	○専門部会第二次研究協議会（授業公開，全体交流，個人研究成果の交流等）
11	○北海道技術・家庭科教育研究会札幌大会（兼全国大会）
12・1	○役員・推進委員研修会（次年度研究内容・研究体制・市町村第三次研究協議会内容の検討） ○教育課程研究委員研修会
2	○技術・家庭科部会情報の発行 ○市町村第三次研究協議会（次年度研究内容・研究体制検討，年間のまとめ）